

2. 津屋崎千軒のまちなみ

津屋崎千軒の歴史

- (1) 津屋崎千軒の繁栄
- (2) 津屋崎千軒の衰退
- (3) 津屋崎千軒のまちの成り立ち
- (4) 津屋崎千軒の地形



津屋崎千軒の繁栄

関ヶ原の戦い（1600 年）の恩賞により、黒田長政公が筑前の領主となり国づくりが行われました。津屋崎では、長政公の家来であった佐治家が、慶安 4 年（1651 年）から屋号を紅粉屋^{べにや}と称して酒造業を始めました。以降、明治のはじめまで二百数十年間に渡って佐治家の酒造りは続きました。

また、近世における津屋崎の産業としては製塩業があります。寛文 8 年（1668 年）に勝浦塩浜^{かんぽう}、寛保 3 年（1743 年）に大社元七^{おおこそとしち}によって津屋崎塩浜で製塩が開始されました。塩の生産と販売により津屋崎には多くの人々が集まりました。江戸時代、勝浦・津屋崎塩田の生産量は、筑前全体の 9 割を占め、大きく他を引き離していました。

さらに大量生産された塩を輸送する海運業が盛んになり、五十集船^{いさばせん}と呼ばれる商船が、津屋崎の港から西日本を中心に、瀬戸内海や日本海沿岸まで塩を輸送していました。そして、帰り荷として各地の海産物や農産物、鉄や衣類、薬、タバコ等を津屋崎に運んで来ました。

それらを扱う商家や加工業者が集い、津屋崎は筑前有数の浦として大変賑わい、津屋崎千軒と言われるようになりました。これら商家には廻船問屋唐津屋や豊村酒造などがあります。



津屋崎千軒の衰退

明治 23 年に九州鉄道の博多－赤間間、明治 24 年に門司－熊本間が開通しました。その後は陸上交通の発達に伴い、海上交通は次第に衰退しました。

昭和 12 年頃には日中戦争の軍需景気により五十集船^{いさばせん}は一時息を吹き返したものの、現在では一隻もみられません。さらに、明治 44 年から 45 年にかけて、塩の専売制に伴い、塩田は廃止となりました。

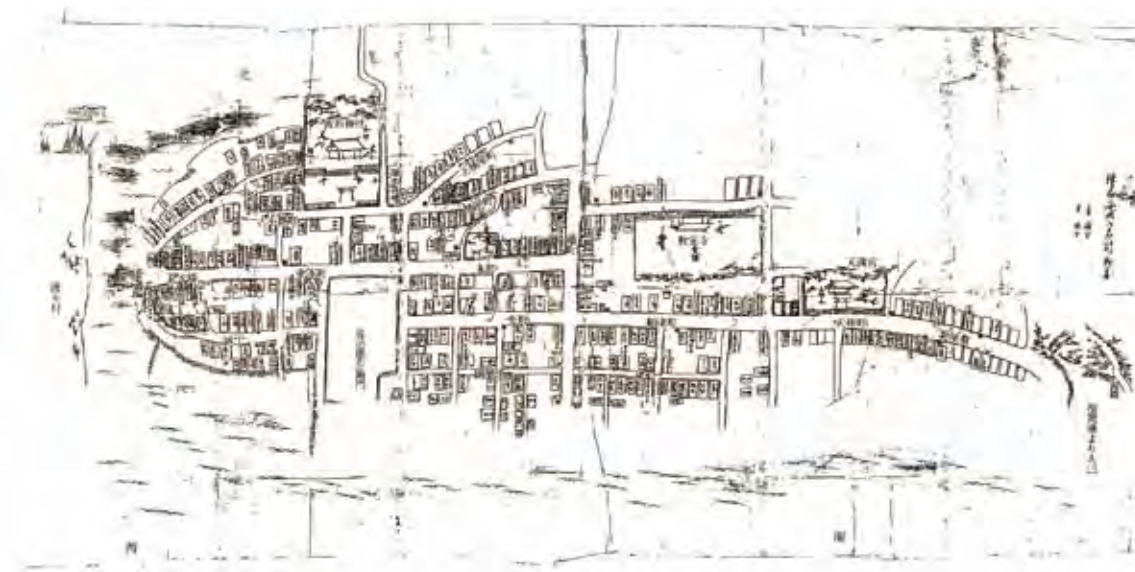


五十集船（大正～昭和初期）
（津屋崎町史より）



津屋崎千軒のまちの成り立ち

津屋崎は、江戸時代、浦と村に分かれていました。浦は、漁業・海運業・商工業に従事する人達の集落でした。また、村は、農業に従事する人々の集落でした。現在の北の一、北の二、新町が津屋崎浦として新宮・箱崎^{ふれ}触等に属しており、天神町、岡の二、岡の三は津屋崎村として勝浦触に属していました。その後、明治政府となり、津屋崎浦と津屋崎村とを合わせて津屋崎村になりました。



江戸時代の津屋崎千軒の絵図（津屋崎町史より）
（この絵図は浦を示しています）

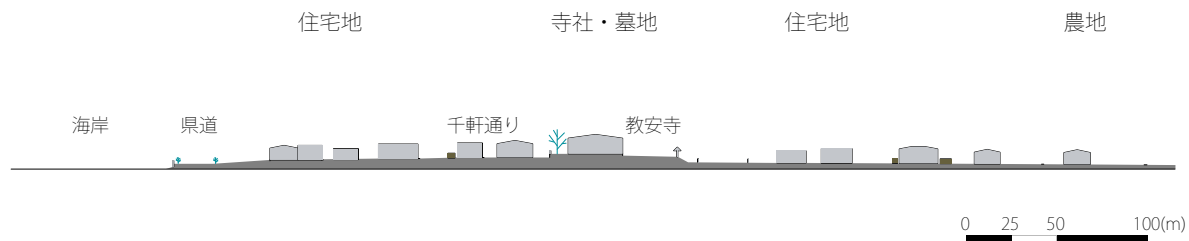


津屋崎千軒の地形

津屋崎千軒は、海岸線に並行する千軒通り（現在の北の一の端～ウオズミ洋服店まで）を軸としてまちを形成しています。

地形は、千軒通りを頂点として、南北の方に土地が少し低く、ゆるやかな丘のようになっています。高低差は最大で4メートル程度です。

千軒通りの北側には微高地が数カ所あり、波折神社、教安寺などの寺社があります。天神町区の微高地には、江戸初期から昭和50年代まで墓地がありました。寺社や墓地のある場所以外が一番高い部分に道が通り、現在の千軒通りになったと考えられます。



南北方向地形断面

津屋崎千軒のまちなみの現状

- (1) 自然的要素
- (2) 歴史・文化的要素
- (3) 建築・空間的要素
- (4) コミュニティ活動



水平線

『北部九州沿岸の海岸線は、西の志賀島から東の北九州に至る海岸を「ひろげたパラソルのふち」と形容されるように玄界灘に突き出るようにして、突端の岩礁部（岬・鼻・崎）と弧状（弓状）を描く美しい砂浜が連なっている。』（津屋崎町史）と言われ、津屋崎の海岸も美しい風景をつくり出しています。水平線に沈む夕日は、とても美しく、大切にされている風景のひとつです。

千軒通りと交差する路地と水平線が生み出す景観は、近景・中景・遠景が見事に調和しています。また、微高地の千軒通りから海に向かって歩くと、水平線の高さの変化を楽しむことができます。



千軒通りからみる水平線



スカイライン

津屋崎千軒の建物は、多くが2階建てです。

建物の高さは、空の見え方に影響を与えます。一定の高さのスカイラインはまちなみに安定感を与え、ランドマーク（陸上の目印・その土地の象徴となるもの）の存在を引き立ててくれます。

津屋崎千軒の中心にある豊村酒造の煙突は、地域に愛され続けているランドマークです。



豊村酒造の煙突と蔵がつくるスカイライン



津屋崎千軒の西端にある津屋崎橋から大峰山の頂上までは、約650メートル(直線距離)です。

大峰山は、津屋崎千軒のまちなみの背景に見えるランドマークです。千軒通りを西に進むと、徐々にまちなみの遠景として大峰山の稜線が見えてくるのが特徴的です。



千軒通りから見える大峰山



樹木・植栽

津屋崎千軒で見られる樹木のひとつに「ハマボウ」があります。7～8月にかけて直径5センチほどの黄色い花を咲かせます。秋には紅葉するのも見どころです。海岸の泥地に自生する福岡県内では珍しい海岸植物ですが、近年、数が減少しています。

津屋崎千軒では、軒先のプランターなど植栽が豊かなことも魅力です。

また、波折神社の境内にある銀杏の御神木^{ごしんぼく}は、福津市指定の天然記念物とされています。



ハマボウ

(撮影：牧忠孝氏、提供：柴田富美子氏)



豊村酒造

豊村酒造は、津屋崎千軒の代表的な伝統的建築物です。

漆喰^{しっくい}壁^{こて}、鰻^{うなぎ}絵、高い板塀などが特徴的です。

創業明治7（1874）年ですが、建物の保存状態がよく、地域のシンボルとなっており、長く親しまれています。



鍵型に折れている千軒通りの曲がり角に建つ豊村酒造

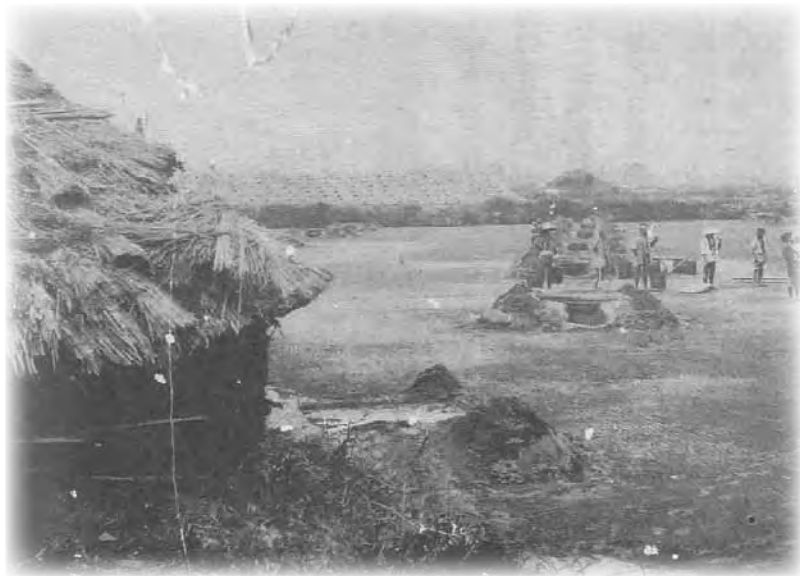


塩倉庫（旧熊本塩務局津屋崎出張所）

通称「塩倉庫」は、明治政府による塩の専売制のもとで、塩田に関する重要書類を保管した文書庫です。明治末に塩田が廃止されたことで役目を終わりました。

勝浦塩浜で寛文8年(1668)、津屋崎塩浜で寛保3年(1743)から製塩がはじまり、明治期にも、福岡県の生産量の3分の1を占めていました。「塩倉庫」は、その時代の名残を残す建物です。

近年では、この建物を利用してコンサートなどイベントが行われました。



明治 33 年頃の塩田の風景（津屋崎町史より）

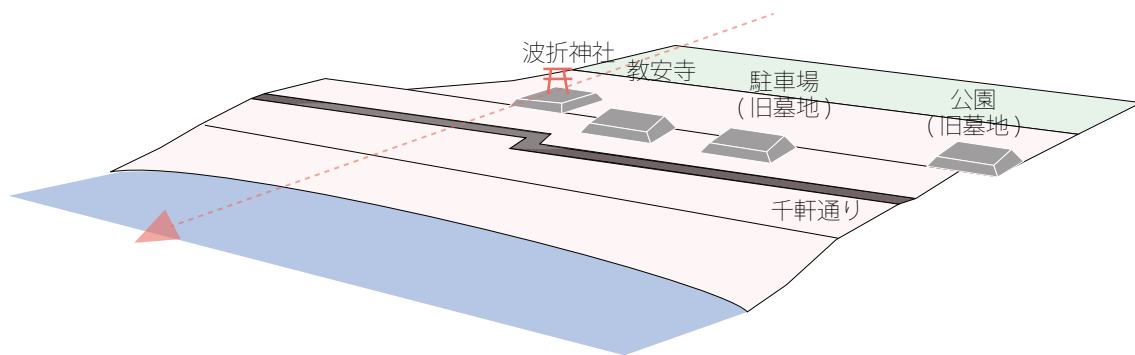


波折神社

波折神社は微高地に^{まつ}祀られています。

神社縁起によると、漁師が嵐にあった時、^{さんしん}三神が現れ波を鎮められたので助かったと伝わっています。津屋崎浦、村の氏神として^{まつ}祀られています。

代表的な祭礼行事としては、7月に祇園祭が行われます。津屋崎人形師によって作られた山笠が^かまちを昇いて廻ります。



津屋崎千軒の地形モデル
波折神社などの聖域は微高地に位置



スアイ・ヒイヤ

津屋崎千軒には、隣家との間に塀がなく、約1m程度の生活道が存在します。津屋崎千軒の中でも、岡の方ではスアイと呼ばれ、北、新町あたりではヒイヤと呼ばれていました。

スアイ・ヒイヤは、日常生活の通行や火災時の抜け道として利用されていました。現在では、住宅を拡張したり物を置いたりすることなどにより、その多くが姿を消しつつあります。

※当ガイドラインでは、この生活道を「スアイ」と統一表記しています。



スアイの幅は様々で、2メートル近くのものもあれば、
1メートルもないものもあります。



津屋崎千軒民俗館「藍の家」(旧上妻染物)

藍^{あい}の家は、明治34年に建てられた藍染めを主とする染物屋(旧上妻家住宅)でした。通りに西面する木造2階建の平入町家で、桁行6間梁間4間半の切妻造^{はり}棧瓦葺です。正面中央の戸口両脇を格子で飾り、2階壁の白漆喰^{しっくい}塗^{しおぎ}、塩木の大きな梁や三和土^{た た き}土間などを残しています。

平成6年に旧津屋崎町へ寄贈され、現在は福津市が建物の保存・管理を行い、藍の家保存会によって運営されています。平成19年に国登録有形文化財に登録されました。

ギャラリーやミニコンサート、藍染め体験など、伝統的な空間を活かしながら、地域のコミュニティ活動の中心となっています。



藍の家正面



町家の構成要素

津屋崎千軒で見られる町家の構成要素として、瓦・格子・^{こうし}卯建・^{うだつ}鰻絵・^{こてえ}漆喰などがあります。

卯建とは、隣家との間に1階屋根と2階屋根の間に張り出すように設けられた壁のことで、防火の役目を果たしました。鰻絵は、漆喰を用いてつくられる浮き彫り細工のことで、豊村酒造の正面にも見ることができます。



瓦



格子



卯建



漆喰壁と鍔絵（豊村酒造）



伝統的コミュニティ（北・新町・岡）

明治5年に、津屋崎浦と津屋崎村が津屋崎村となりました。現在でも北の一区、北の二区には漁業に携わる方々が、新町区には商店が、天神町区、岡の二区、三区には職人の店や農家が比較的多く見られ、当時の特性を継承しています。

しょうとく
正徳2年（1712年、一説には正徳4年）から行われている祇園祭では、北・新町・岡の3つの流があり、現代まで継承されています。



旧町名と山笠の流



現代的コミュニティ

近年では、文化サークル、まちづくり団体など、それぞれの趣向に応じた新たな活動が生まれています。

このような活動から派生する交流も生まれています。新たな活動が、現在の津屋崎千軒を活気づけています。

- 津屋崎郷づくり
- 藍の家保存会…国登録有形文化財である藍の家の運営
- 藍色の会…藍の家で藍染めの勉強、作品づくり
- 海とまちなみの会…津屋崎千軒のまちなみ保全を目的として、津屋崎千軒の観光ガイドや「ふるさと塾」、町興しと催事開催等
- 津屋崎ブランチ…津屋崎を中心としたまちづくり活動等
- 山笠保存会
- 老人クラブ
- いきいき夢の会

